

2018年8月2日

2018年カーボンブラック需要年央見直し

カーボンブラック協会

内閣府の7月の月例経済報告によると、国内の景気は緩やかに回復が続いており、個人消費、輸出共に持ち直し、また生産、設備投資も緩やかに増加傾向にある。

先行きについても、雇用・所得環境の改善が続くなか、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くものと期待されているが、7月の西日本豪雨の経済に与える影響も留意が必要としている。

また、世界の景気も緩やかに回復傾向にあるものの、先行きについては、通商問題の動向、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要があるとしている。

こうした経済環境の中で、自動車タイヤの国内需要については(一社)日本自動車タイヤ協会が、新ゴム消費量については(一社)日本ゴム工業会が年央の見直しを発表した。

これによると、自動車生産台数は前年実績比横ばい、タイヤの国内需要も年初見通し比横ばいとしている。一方、新ゴム消費予想量は、前年実績比でタイヤ用が0.7%減、タイヤ以外の一般ゴム用が0.7%増と年初時の見通しとほぼ同値である。

当協会は、(一社)日本自動車タイヤ協会と(一社)日本ゴム工業会の見直しをベースとし、その他カーボンブラックの輸出入の現況も織り込み、本年のカーボンブラック需要の見直しを行った。

その結果、カーボンブラック総需要(輸出・輸入込)は、年間で前年実績比100.5%となった。

「需要見通しの指標」については、添付別紙【表1】を、「カーボンブラック需要見直し」については、【表2】を、輸入見直しについては【表3】を参照願いたい。

以上

【表1】 2018年年央見直しの指標

『年初見通し』の※前年比は前年見込み比%

	2017年実績		2018年年初見通し		2018年年央見直し	
	数量	前年比 (%)		前年比※ (%)	数量	前年実績比 (%)
自動車生産 (台)	9,691,000	105	9,489,000	99	9,703,000	100
タイヤ生産 (トン)	1,026,450	101	1,020,760	99	1,019,270	99
一般ゴム生産 (トン)	266,950	104	266,540	101	268,730	101
新ゴム消費量 計(トン)	1,293,400	101	1,287,300	100	1,288,000	100

【表2】 2018年カーボンブラック需要年央見直し

数量単位:トン、『年初見通し』の※前年比は前年見込み比%

	2017年実績		2018年年初見通し		2018年年央見直し	
	数量	前年比 (%)	数量	前年比※ (%)	数量	前年実績比 (%)
タイヤ	515,278	100.7	512,422	99.3	511,674	99.3
一般ゴム	152,162	103.5	151,928	100.8	153,176	100.7
ゴム用計	667,439	101.3	664,350	99.6	664,850	99.6
非ゴム	38,365	100.6	38,700	100.9	39,300	102.4
内需計	705,804	101.3	703,050	99.7	704,150	99.8
輸出	55,336	111.0	56,000	103.5	60,900	110.1
[内ゴム用計]	17,227	97.6	18,000	104.5	18,900	109.7
総需要	761,140	101.9	759,049	100.0	765,050	100.5
[内ゴム用計]	684,666	101.2	682,349	99.8	683,750	99.9

【表3】 2018年カーボンブラック輸入動向年央見直し

数量単位:トン、『年初見通し』の※前年比は前年見込み比%

	2017年実績		2018年年初見通し		2018年年央見直し	
	数量	前年比 (%)	数量	前年比※ (%)	数量	前年実績比 (%)
ゴム用	147,710	96.5	151,800	100.0	142,000	96.1
非ゴム用	14,600	109.8	13,200	100.0	14,000	95.9
合計	162,310	97.6	165,000	100.0	156,000	96.1